

花ちゃん・オー君・モンタ博士・フツ博士のかくれ探偵活動

国立市立国立第七小学校

平成29年4月11日 NO.3 (403)

花ちゃん 「もう春^{はる}ですね。きもちいいですね。」

オー君 「そうだね。こんな時^{とき}には、校庭^{こうてい}をてくてくしようか。」

花ちゃん 「校庭^{こうてい}には、サクラの花^{はな}が満開^{まんかい}だし、それから、ナノハナ、サクラソウ、
チューリップ、ネモフィラなど、いろいろなお花^{はな}が咲^さいているわ。みんなで
さが探^{さが}しにいきましょう。」

オー君 「そうしよう。そうしよう。」

花ちゃん 「あれあれ？あの昇降口^{しょうこうぐち}の前^{まえ}に何か^{なに}あるわ？見^みに行^いってみましょう。」

オー君 「そうしよう。そうしよう。」

ということで、てくてくして、その花^{はな}を見^みて・・・

花ちゃん 「あれあれ？白いダイコンがつきささっているわ。」

オー君 「ということは、この花^{はな}はダイコンの花^{はな}ということだ。」

花ちゃん 「わたしもいろいろな花^{はな}は好き^すだけど、ダイコンの花^{はな}というのは初めて見るわ。」

オー君 「ダイコンといえば、ダイコンおろしとか、ダイコンのおでんとか、ダイコン
のお味噌汁^{みそじる}とか、食^たべることしか考^{かんが}えていなかったけど、こうしてみると、
ダイコンの花^{はな}ってなかなかいいね。あ！発見^{はっけん}したよ。ダイコンは4枚^{まい}の花び
らがあるんだ。」

花ちゃん 「花びら^{はな}の色^{いろ}はまっ白^{しろ}で、とてもきれいな感じ^{かんじ}ですね。」

オー君 「でも、どうしてダイコンが鉢^{はち}の中^{なか}に植^うえてあるんだろう。これは、国立7小^{くにたちしょう}
のミステリーかもしれないぞ。そうだ！モンタ博士^きに聞いてみよう。」

花ちゃん 「なぜ、ダイコンが鉢^{はち}に植^うえてあるのですか。」

モンタ博士 「答えはミステリーでも何^{なん}でもないよ。このダイコンは冬^{ふゆ}の間^{あいだ}にモンタ博士^きが
がっこうか^{こた}の八百屋^やさんで買^かってきて、さして置^おいたものなんだ。ダイコンの
花^{はな}なんて初^{はじ}めてだろう。よーく見^みて、いろいろと発見^{はっけん}をたの
しもう。」



ダイコン
(アブラナ科)

ダイコンのつぶやき

私はダイコンです。大きな根と書いて大根ですが、白く大きく太っているのは根だけではなく、胚軸という部分もあるんです。貝割れ大根はダイコンの芽生えであり、双葉のすぐ下にある茎は胚軸と呼ばれています。ダイコンをよく見ると、根の生えている所やその痕跡があるのが根であり、上の方の真っ白でつるんとなっていますが、これが胚軸と呼なんです。植物は根・茎・葉からできているというのは常識ですが、ダイコンの場合の茎は、葉の付け根にある短い部分だけなんです。

ダイコンの花は、白いナノハナのように見えますが、それはダイコンもアブラナ科の植物、野菜だからです。ダイコンの学名は、*Raphanus sativus* (ラファヌス・サティバス) で、サティバスとは、栽培すると意味です。ダイコンの栽培の歴史は古く、原産地は地中海沿岸なんです。古代エジプトでは、薬草として栽培されていたという記録もあります。大根は根も深いが奥も深そうでしょ。